

6 ブロイラー農場における鶏大腸菌症生ワクチン投与試験（第2報）

ゴトウシンペイ

○後藤新平・高橋祥子・遠藤裕久（岐阜アグリフーズ㈱）

ブロイラーにおける鶏大腸菌症は、死亡鶏の増加や、食鳥検査における廃棄鶏の多くを占め、生産性に多大な損失を与えている。2013年に、日生研から鶏大腸菌症生ワクチンが発売され、抗生物質や抗菌剤を全く使用しない農場での野外試験により、1日齢と4週齢の2回投与において最も良好な成績が得られたことを、平成26年度日本産業動物獣医学会（中部地区）において発表した。その後、2回目（3・4週齢）の投与時に、鶏が奥に寄ったり、換気扇を止めて実施するため、開口呼吸が顕著にみられることがあった。そこで、入雛時1回のみでの投与で経過観察し、出荷時の成績を検討したのでその概要を報告する。

【材料および方法】

1. 鶏舎概要：1号団地（E,F,G,H棟：各棟25,000羽）（ウィンドウレス鶏舎）
2号団地（1～7棟：各棟9,000羽）（ウィンドウレス鶏舎）
3号団地（C,D棟：各棟53,000羽）（ウィンドウレス鶏舎）
2. 試験期間：1）第1期：全群1回噴霧投与（1日齢）2015年1月～4月
2）第2期：全群1回噴霧投与（1日齢）2015年4月～7月
3）第3期：全群1回噴霧投与（1日齢）2015年7月～10月
3. 試験方法：各群、入雛時（1日齢）に鶏大腸菌症生ワクチン（ガルエヌテクトCBL：日生研）を1,000羽あたり300mlの生理食塩液で溶解し、バッテリー動噴「霧大将」（丸山製作所）に微量ノズル5型（粒子径<100 μ m）をつけて噴霧投与した。

出荷時の育成率および食鳥検査成績（大腸菌症による全廃棄率、心肝の部分廃棄率）について、2013年度、2014年度の成績と比較検討した。

【試験成績】

- 1）第1期：2013年度（育成率：96.1%、大腸菌症：1.03%、心肝廃棄率：0.49%）
2014年度（育成率：95.8%、大腸菌症：0.65%、心肝廃棄率：0.21%）
2015年度（育成率：95.0%、大腸菌症：0.40%、心肝廃棄率：0.24%）
- 2）第2期：2013年度（育成率：92.6%、大腸菌症：1.05%、心肝廃棄率：0.49%）
2014年度（育成率：94.8%、大腸菌症：0.33%、心肝廃棄率：0.18%）
2015年度（育成率：95.1%、大腸菌症：0.18%、心肝廃棄率：0.20%）
- 3）第3期：2013年度（育成率：95.3%、大腸菌症：0.90%、心肝廃棄率：0.22%）
2014年度（育成率：97.0%、大腸菌症：0.22%、心肝廃棄率：0.16%）
2015年度（育成率：96.7%、大腸菌症：0.08%、心肝廃棄率：0.10%）

【考 察】

1. 2015年度1・2期に鶏アデノウイルス感染症の発生があり、育成率は若干低下した。
2. 大腸菌症による全廃棄率は、各期とも過去2か年に比べ減少し、改善効果が見られた。
3. 鶏大腸菌症生ワクチンは2回投与が基本であるが、状況により2回投与が困難な場合には、入雛時1回投与だけでもワクチンによる改善効果が得られることが確認された。